

フグ毒と麻痺性貝毒の産生と動態に関する 研究の現状と展望

－ I : 1月号－

－ II : 2月号－

1. 長島裕二
フグ毒と麻痺性貝毒の産生と動態に
関する研究の現状と展望
2. 伊藤正晟・安川詩乃・尾山輝・周防玲・
杉田治男・糸井史朗
フグの毒化とテトロドトキシンの生
物間移動
3. 安川詩乃・伊藤正晟・尾山輝・周防玲・
杉田治男・糸井史朗
テトロドトキシンの生物間移動と食
用二枚貝類の毒化
4. 辰野竜平・高谷智裕・荒川修
フグ毒保有魚類の成長や成熟に伴う
毒蓄積組織の変動
5. 松本拓也
トラフグにおけるテトロドトキシンの
体内動態
6. 大嶋雄治・橋口康之
トリブチルスズ結合タンパク質およ
びフグ毒結合タンパク質の機能と分
子進化
7. 高谷智裕・張宇騁旻・筒井英人・荒川修43
カニの毒ーフグ毒と麻痺性貝毒の蓄
積, 分布, 起源
8. 山下まり・工藤雄大・上山望・八重樫優士・
長由扶子・此木敬一47
フグ毒テトロドトキシンの生合成経
路の推定
9. 工藤雄大・山下まり53
陸棲両生類イモリおよびカエルにお
けるテトロドトキシンの起源と蓄積
および推定生合成経路
10. 及川寛60
麻痺性貝毒の分布と動態
11. 長由扶子・日出間志寿・大村卓朗・土屋成輝・
小池一彦・小池香苗・及川寛・此木敬一・
大島泰克・山下まり65
渦鞭毛藻における麻痺性貝毒の生合成
12. 荒川修・山田明德・山口健一・高谷智裕70
フグにおけるフグ毒と麻痺性貝毒の
選択性
13. 佐藤繁76
麻痺性貝毒およびフグ毒に対するポ
リクローナル抗体の開発

筆者: 1. 新潟食料農業大, 2. 日大, 3. 日大, 4. 水産大学校・長崎大, 5. 県立広島大, 6. 九大・大
阪医薬大, 7. 長崎大, 8. 東北大, 9. 東北大, 10. 水産技術研, 11. 東北大・福島県立医大・水圏科
学コンサルタント・広島大・水産技術研, 12. 長崎大, 13. 北里大